

クローズアップ NGO・NPO

特定非営利活動法人

アーユス仏教国際協力ネットワーク 事業担当 井上 団
世界にお布施。お寺とNGOをつなぎ、社会を変える

■ アーユスがめざしていること

アーユス仏教国際協力ネットワーク（以下、アーユス）は、1993年に宗派を越えて仏教僧侶が集まり設立された国際協力NGOです。仏教の精神に基づいて世界のさまざまな現実に目を開き、平和、人権、貧困、不公正、環境破壊などの問題に足元から取り組んでいます。

設立の端緒はそれより15年ほど前に遡り^{さかのぼ}ます。当時大量に出たインドシナ難民の窮状に対して街頭募金活動を始めた若手僧侶たちが、その後もタイ・カンボジア国境近くの難民キャンプ等を訪ねる中で感じた国際協力を巡るさまざまな困難や矛盾を仏教者としてどう捉え、どのように改善していけるかを考えながら、よりよい方向への一歩を踏み出そうと会を発足させました。

アーユスが活動を進めるうえで大切にしているのは、社会の中で特に困難を強いられている人たちに寄り添うこと。その困難の原因を世界の構造的問題のありさまに見出し、解決への道の一つとしてNGOの役割を重要視しています。

私たちがパートナーとして支援するNGOから寄せられる情報は、遠い国であっても決して無縁でないという気づきを開いてくれます。アーユスは、これらの情報を会員・関係寺院を通じて社会に発信することにも注力しています。お寺という人々が集う場、地域社会の核となる場を活かして、海外と日本の地域を結ぶ存在になろうと努めています。

私たちは、現地の人々と協力し合い、問題の根

本を見つめ、未来を共有していこうというNGOの姿勢を仏教の教えの実践と捉え、人と地域と世界をつなぎながら、すべての命が尊重され、生かしかせられ合う社会の実現を目指しています。

■ アーユスが行う活動について

アーユスでは、「NGO支援」と「教育・交流」の2つの事業を柱とした活動を行っています。NGO支援事業では、国内人件費の一部を支援して組織面の強化や支援者拡大につなげる「NGO組織強化支援」、NGOが行う組織・事業評価に係る資金の一部を提供する「NGO評価支援」、平和や人権の分野で助成が得られにくい事業を後押しする「平和人権支援」、大規模災害や紛争時の緊急事態に際して速やかに援助活動に係る資金を提供する「時局対応支援」などのプログラムを行っています。これらに共通していえることは、限られた予算の中での緊急救援や現地の人たちと一緒に自立に向けた協力を行う中小規模のNGOを支援の対象としていることです。こうした支援が日本のNGO活動の底上げにつながり、ひいては日本での市民活動の活性化と、持続可能な日本社会の実現に寄与するものと考えています。

一方、教育・交流事業では、アーユスの会員・関係寺院を通じて、パートナーNGOから寄せられる海外現場の情報を広く社会に発信しています。また、お寺を活用して国際協力や仏教の社会への関わり方などを学ぶ機会を提供しています。具体的には、パートナーNGOのスタッフを



山梨県富士吉田市の会員寺院のお堂をお借りして、NGOのACEのご協力のもと、チョコレートから世界を考えるワークショップを開催しました

講師に迎えるセミナーやシンポジウムの開催、開発教育ワークショップおよび国内外でのスタディツアーなどを実施しています。これと並行して、NGOと協力して開発教育教材や仏教寺院向けの教化教材の製作などを行っています。

■ アーユスがいま力を入れていること

アーユスが現在特に力を入れているのが東日本大震災の被災地への支援活動、とりわけ原発事故による放射能汚染が深刻な福島県での活動です。アーユスは2012年3月に東日本大震災被災地支援と原発問題への取り組みと姿勢を示したポジションペーパーを作成し、これを指針として福島で放射能汚染と向き合う人たちの声を聞き、自分たちにできることを模索しながら活動を行ってきました。これまでの支援例として、伊達市月舘町で農産物の直売や農山村のさまざまな体験教室を行う「つきだて交流館もりもり」に食品放射能測定器を寄贈し、生産者・消費者とも農産物を安心して売買できる環境づくりに協力しました。また、子どもたちの放射能汚染を心配する郡山市のお母さんたちのグループ「安全・安心・アクション in 郡山」(3a)の運営費を支援しています。3aは、お母さんたちが日々抱える不安や不満を吐露し合う座談会の開催、安心野菜の仕入れ販売、野菜等の食品放射能測定、郡山市政への要望書・嘆願書の提出などを行っています。さらに、いわき

市にある「いきいき食彩館スカイストア」から加工品を仕入れ、東京都内・近郊の関係寺院で行われる物産市での販売にも協力しています。その他、一昨年と昨年の夏には、山梨県富士吉田市の会員寺院のご協力で福島の子もたちを短期間受け入れ、野外で思いっきり遊んでもらう夏合宿を行いました。

2012年11月には福島の関係先を訪問するスタディツアーを実施しましたが、行く先々で福島の人たちの切実な声を聞きました。「子どもたちを週末だけでも放射線量の少ない地域へ保養に出したい」、「除染をしなければ前に進んでいる気がしない」、「農業ができなくなると地域が本当に崩壊してしまう」、「とにかく子どもたちが安心して暮らせる環境をつくりたい」。こうした人たちに共通していたのが、福島という土地を愛し、困難な状況にありながらもよりよい社会を創ってきたいという熱い思いでした。こうした思いは、まさにアーユスをつくった若手僧侶たちがインドシナ難民に出会ったときに聞いたことと相通じるものがあります。福島と関わることはアーユスの活動の原点を見つめる機会にもなっています。今後も福島で起きていることを外に発信しつつ、福島の人たちと一緒に持続可能なよりよい社会のあり方を考えていきたいと思えます。



2012年11月に実施した福島スタディツアーで郡山市の3aの事務所を訪問した時の様子

■ 「お寺とNGOをつなげ、世界と地域をつなぐ」

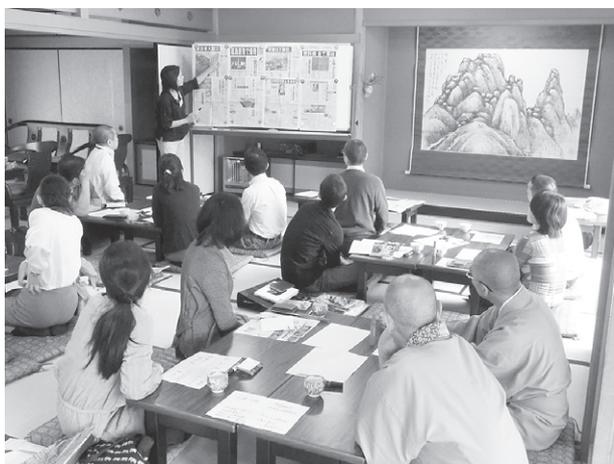
アーユスは今年で設立されてから20年目を迎

えます。アーユスの活動の特徴は、今すぐ支援が必要とされるところに資金を提供すること、支援が届きにくい活動や地域を優先して支援すること、そして、互いに理念を共有し合うNGOとともに日本社会をよりよい方向へと変えていく活動に積極的に取り組むこと。これを20年間一途に追い求めてきました。

これからのアーユスは、海外への協力活動を継続するとともに、特に福島での経験を活かして、これまで以上に現代社会が抱える矛盾や問題を明らかにする取り組みに協力し、困難を抱える人た

ちに寄り添う活動を支援していきたいと考えています。その際に、自治体や企業など他セクターとの連携・協働の可能性も視野に入れながら、互いに協力できることがあれば協力するというスタンスでさまざまな問題と向き合っていきたいと考えています。

アーユスはこれからも、仏教寺院が世界に目を開き、NGOと協力して国内外の問題に果敢に取り組み、世界と地域をつなぐ架け橋になることを積極的に応援していきたいと考えています。



アーユスとNGO関係者が集まった合宿で、原発問題と新エネルギーのあり方を考えるワークショップを行いました



築地本願寺で開催された「花まつり」にいくつかのNGOと出店し、福島の物産などを販売しました

第282号 自治体国際化フォーラム4月号

平成25年3月15日発行

編集人 藤田 穰

発行所 財団法人自治体国際化協会
〒102-0083

東京都千代田区麹町1-7

相互半蔵門ビル

Tel. (03) 5213-1722

Fax. (03) 5213-1741

Homepage <http://www.clair.or.jp/>

E-mail forum@clair.or.jp

編集協力・印刷 エイト印刷株式会社

本書からの無断複写・転載を禁じます。

編集後記

今回のグラビアでは「棚田」を取り上げてみました。

この十数年、注目を集めている棚田。管々と積み上げられた津々浦々の景観を見ていると、ふと漂泊の思いに駆られることがあります。さらには、高齢化・過疎化による耕作放棄地の拡大が進む中での各地の棚田保全の取り組みに対して、目頭が熱くなることもあります。このような気持ちに辿り着くのは筆者だけではなく、

今年もまた、田植えの時期が近づいてきました。

今回の特集で触れた地方空港なども活用しつつ、日本あるいは世界の棚田の前に佇んでみる。そうした余裕を生活の一部として持っておいても良いのかもしれない。(T.N)